

かしま HOT 通信

4月号 Vol.339

令和3年(2021年)4月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室
■発行/社団法人養生会

〒971-8143
福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢目22-1
tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...

上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。
かしま病院広報企画室(江坂 宛)まで
r-esaka@kashima.jp

ホームページ <http://www.kashima.jp>

かしま病院

検索

スマートフォンをご利用の方は、

QRコードを読み取り、アクセスしてください。

PCサイトと同じ内容をご覧頂けます。



1
2

巻頭特集

「研修医(初期研修医・専攻医)について」

3

いわき地域リハビリテーション
広域支援センターのご紹介

コラム ひんがら目(166)
「ガラス戸越しの老人ホーム面会」
呼吸器科 部長 山根 喜男

4

ようこそ家庭医療へ!
リハビリPOST
「ガンバロード」のご紹介
かしま荘通信

かしま病院 創立38周年

地域医療と全人的医療の実践

4月5日はかしま病院の創立記念日で、今年で38周年となりました。当院は開設以来、「地域医療と全人的医療の実践」を理念に地域医療を続けてきました。これからも地域の皆様に寄り添い、地域医療に貢献していきたいと思ひます。

巻頭特集

研修医 (初期研修医 専攻医) について



皆 さんは、研修医についてどのくらい知っていますか？ 研修医という言葉は知っていても、どんな立場なのか、いつまで研修するのかなど、わからない部分も多いと思います。当院でも研修医を受け入れていますが、当院を利用されている方にも身近な存在だと言えます。今回は、研修医について詳しくなる特集です。

研修医とは

研修医とは、医師国家試験に合格して、医療の現場で研修中の医師のことです。医学部を卒業して医師免許を取得しているため、医師としての仕事ができます。研修は段階ごとに分かれており、医師免許取得後に約2年間行う「初期臨床研修」と、初期臨床研修の後、更に専門的な領域ごとに行う「専門研修」の2種類があります。初期臨床研修中の医師を「初期研修医」、専門研修中の医師を「専攻医」と呼びます。

初期研修医について

先ほどご説明した通り、医師免許取得後、約2年間の初期臨床プログラムによる研修をしているのが初期研修医です。大学での座学や実習、国家試験合格という長い道のりを経て医師免許を取得して

いますが、まだ医療の現場に出たばかりなので、ベテランの指導医の下で経験を積んでいきます。初期研修医が行う診察や今後の診療方針などは、全て指導医がチェックしているため、誤った方向に進む前に気付くことができます。また、研修中に一人で実施しても良い行為や、原則として指導医に確認しなければ実施できない行為などが事前に決められています。このように、研修医の力に合わせた研修内容になっているため、研修医は万全の体制の下で経験を積むことができ、患者さんは安心して医療を受けることができるようになっています。

当院では、初期臨床研修プログラムの必修項目である「地域医療」について学ぶことができます。基本的に4週間の研修期間で、地域の特性に即した医療の提供や、在宅医療について学びます。当院では、いわき市医療センター、東京慈恵会医科大学附属病院、福島県立医科大学附属病院、聖マリア



ンナ医科大学病院からの初期研修医を受け入れています。

当院のブログにて、当院で初期臨床研修を行った研修医の先生から、研修をしての感想を伺い、ブログに掲載するという取り組みを実施しています。感想を拝見すると、当院は地域に密着した病院なので、大型の急性期病院とは違い、患者さんにじっくりと接することで見えてくる部分があることがわかります。また、県外から研修に来る先生も多いためか、温暖な気候であり、おいしい食べ物があるいわき市という場所の魅力の一つという感想もいただいています。今後もこの取り組みを継続していきますので、ぜひチェックしてみてください。

専攻医について

初期臨床研修が修了すると、ほとんどの医師が専門医資格の取得を目指して3〜5年間の専門医研修プログラムによる研修を行います。この専門医研修中の医師を専攻医と呼びます。専攻医は、初期臨床研修を経てるので一定以上の実力が付いており、研修中ではありませんが、多くの医療機関で即戦力として活躍しています。

専攻医が目指している専門医とは、内科や外科などの領域ごとに、専門性を更に高めた医師のことです。専門医は、認定内科医や外科専門医等から成る基本領域と、基本領域を更に細分化した、消化器病専門医や循環器専門医などのサブスペシャリティ領域に分かれています。専攻医は、それぞれの領域の指導医の下で、専門的な知識を身に付けていきます。

当院では、福島県立医科大学の「地域・家庭医療学講座」の協力病院として、家庭医療を学ぶ専攻医を受け入れています。当誌4ページ目の「ようこそ家庭医療へ！」でおなじみの、総合診療科石井敦先生が中心となって指導しています。

ここで、令和2年4月1日から令和3年3月31日まで当院総合診療科にて専門医研修を行った佐々木聡子先生から、研修を終えての感想を頂きましたのでご紹介します。

1年間の 専門医研修を 終えて

佐々木 聡子



佐々木先生(左)と
指導医の石井敦先生(右)です。

いわきでの1年間は、COVID-19の流行もあり今までとは少し違った1年となりましたが学ぶことの多い1年でした。

かしま病院での診療は外来、病棟、救急、当直、予防接種、健康診断、内視鏡、など多くの診療に携わらせていただきましたが、特に入院した患者さんが家に帰るまでの道筋を考える過程でより深く患者さんに関われたことが印象的でした。病棟では看護師、リハビリ担当、SWなど多くのスタッフと患者さんも交えて一緒に退院後のことを考え、その後訪問診療部のスタッフと私が自宅を訪問するという繋がった医療を経験できたこともとても大きな経験でした。

1人の患者さんに多くのスタッフが携わり、本人も交えた1つのチームで意見を出し合い

退院後の調整していく中で、様々な職種スタッフと普段からコミュニケーションを取ることがとても大切と感じました。COVID-19があったため病院以外ではお話しする機会がなかなかありませんでしたが、業務の間に少しずつ色々なお話をすることでほんの少しずつ距離が縮んだように思います。相手を知ることで信頼関係は生まれると思います。1年という短い間は難しいことでしたが働きやすい環境を作ってくくださった皆様に感謝致します。

穏やかないわきの気候・サバサバした男気溢れるいわきの人々の性格に助けられ、1年間の研修を実りあるものにできました。4月からは白河厚生総合病院で働きます。ここでの経験を生かして次の1年も更に成長していけるよう頑張ります。1年間ありがとうございました。

佐々木先生、1年間の研修大変お疲れ様でした。多くの業務で活躍していただき、ありがとうございました。今後の研修もぜひ頑張ってください！



令和3年度の 研修医受け入れ

当院では令和3年度は、16名の初期研修医と、2名の専攻医を受け入れる予定です。今後も継続して研修医を受け入れて、医師の育成に力を入れていきます。

来月号では、4月から当院での研修に入る専攻医をご紹介しますのでお楽しみに！



かしま病院 ブログ 研修医コメント掲載中

3月は慈恵医科大学附属病院より、戸田先生(右)と奥田先生(左)が研修しました。今回は、奥田先生から感想をいただきましたので、近日公開予定です。



← アクセスは、
こちらのQRから。



ようこそ 家庭医療へ!

～ いわきに生きる家庭医育成への挑戦 ～



2021年3月14日、日本プライマリ・ケア連合学会 福島県支部設立総会が開催され、新しい支部が誕生しました。私を感じます福島県支部の特長として、各施設や各専門職の垣根を取り払って、プライマリ・ヘルス・ケア向上のために、互いの立場から情報を発信し、一致団結して協力し合って高め合っていこうと

いう共通認識が強固ということなのです。

言うまでもなく、福島内には他地域では経験のないような困難な状況下で、もがき、試行錯誤ながら各持ち場を守り抜き、乗り切ってきた数多の仲間がいます。いまこそ、これから始まる未来に向けて、それらの英知を結集・共有し、質の高いプライマリ・ヘルス・ケアを実現することで社会に還元する時なのだと思えます。

全会一致で福島支部長に選任された、福島県立医科大学 医学部 地域・家庭医療学講座 葛西 龍樹 主任教授は、設立記念

第134回 福島から未来を始めよう!

診療部 石井 敦



講演会の締めの一語で、桑田佳祐さんの「SMILE」のフレーズ「ここから未来を始めよう」を引用され、「私たちの経験・情報・考え・要望を共有し、プライマリ・ヘルス・ケアの質を高めませんか?」と、熱い想いを表明されました。

福島県支部設立記念講演会で、プライマリ・ケア認定薬剤師の松木友治先生が語った、プライマリ・ケア認定薬剤師は、制度上の単なる「かかりつけ薬剤師」ではなく「住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるようサポートする薬剤師」です。というフレーズが、個人的に最も心に刺さり、腑に落ちる言葉でした。家庭医・総合診療医は、制度上の単なる「かかりつけ医」ではなく「住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるようサポートする医師」であるという思いで長年仕事をしてきたので、同じ思いを持ちながらも周りに仲間が少なく心折れそうになり、それでも信念を貫き通している専門職の仲間がいることを確認でき、勇気と活力をもらうことができました。

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。



リハビリテーションとは

ネットに上げて話題になるなど、リハビリの重要性が広く世の中に認知されつつあります。

今回は「リハビリテーション」について、私達リハビリスタッフが実際に行っていることを紹介したいと思います。まず、「リハビリテーション」とは障害をもった方が可能な限りもとの社会生活を取り戻すということを目的とした治療法のことです。脳卒中を例に挙げると、半身不随になった場合に、障害自体が軽減するように機

能訓練を行い、それに伴って日常生活動作が向上するように指導していきます。

しかし、入院された患者様を元の生活レベルにまで戻す、というのは簡単な事ではありません。ある程度、障害が後遺症として残存した場合はその障害と一生付き合っていくことになるかもしれません。そこで私達リハビリスタッフとしては患者様が安心して日常生活を送れるように、退院後もリハビリを行うことがあります。またリハビリに通うのが大変な方に対してはご自宅に伺ってリハビリを行ったりもします。

このように、入院中だけでなく退院後も生活の支援を行うことも「リハビリテーション」の特徴です。各スタッフが連携し、患者様が退院後も安心して過ごせるようにより良い方向へ導く手助けをしています。

理学療法士 長岡 哉



かしま荘通信

ひなまつり

3/3(水)



3月3日はひなまつり。かしま荘では手作りのお雛様セットで写真を撮ったり、おやつバイキングや玉入れをしたりといつもより盛りだくさんの一日でした。ほかに甘酒やちらし寿司など春らしいメニューも振舞われ、利用者様のお顔もほころぶ春日和となりました。



ご紹介 ガンパロード

ガンパロードは「30分の1勾配・全長100m」のスロープで、多くの皆様に運動・くつろぎ・交流の場としてご利用いただいています。

また、壁には45枚の絵が飾られており、半年毎に更新しています。現在はジブリ作品の絵を展示していますので、楽しみながらご利用いただけたら嬉しいです。

